

第41回緑風舎コンサート

Pavel Gomziakov

パヴェル・ゴムツィアコフ チェロ・リサイタル



with Tamaki Niga

Cello Recital

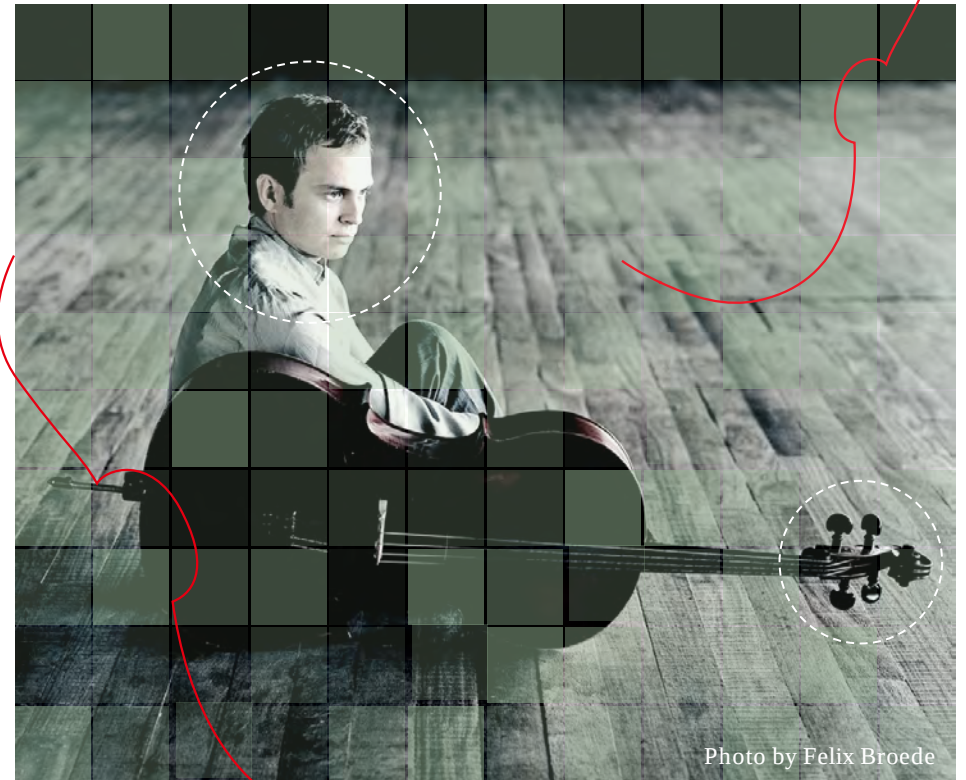


Photo by Felix Broede

Sun. Sep. 17, 2017 5:00p.m.

緑風舎音楽ホール

Today's Program

♪ ショパン ♪

チェロとピアノのためのエチュード Op.25 より第 7 番 (編曲: グラズノフ)
F. Chopin : Etude (arr. A. Glazunov) for cello and piano Op. 25, N7

♪ ブラームス ♪

チェロソナタ第 1 番 ホ短調 作品 38
J. Brahms : Sonata N1 in E minor Op. 38

—— 休 憩 ——

♪ グラズノフ ♪

ミンストレル (吟遊詩人) の歌 作品 71
A. Glazunov : Song of Minstrel Op. 71 Elegy Op. 17

♪ ショスタコーヴィチ ♪

チェロとピアノのためのソナタ ニ短調 Op.40
D. Shostakovich : Sonata for cello and piano Op. 40

グラズノフとショスタコーヴィチ

♪……わたしはグラズノフを自分の教師の一人と呼ぶ権利を確実にもっていたのである。……グラズノフから私は何を学んだか。じつにたくさんものを学び、ひじょうに重要なことを学んだ。もちろん、もっと多くのことも得られたかもしれないが、私はほんの青二才だった。いくら努力家で勤勉であったにしても、やはり青二才のことだ。いまでは多くのことで後悔している。

♪作曲家たる者、演奏者を服従させねばならず、その反対であってはならない、とわたしに最初に教えてくれたのはグラズノフだった。もしも作曲者にとって芸術上の理由から三重ないし四重の吹奏楽器が必要ないとしたら、それは意味のあることだ。……作曲家はまさに考えだしたとおりに管弦楽を編成しなければならず、あとになって、演奏者の気に入るように管弦楽編成をすべきではない。そんなふうにグラズノフは語っていた。

♪グラズノフは本質的にはわたしの音楽を気に入っていなかった。それも、時が経つにつれて、ますます気に入らなくなっていった。

♪グラズノフはどんなに難解な総譜でも、初見で演奏することができた。そして彼の弾く音は、すばらしいオーケストラが演奏しているように鳴り響くのだった。

——『ショスタコーヴィチの証言』(中央公論社、1980年10月)より——

♪ピアノ: STEINWAY HAMBURG製

パヴェル・ゴムツィアコフ Pavel Gomziakov : cello



(c) Jean-Baptiste Millot

ロシア・ウラル地方のチャイコフスキー市生まれ。9歳でチェロを始め、14歳でグネッシン国立アカデミーに入学。その後モスクワ音楽院に進み、ドミトリ・ミレールに師事した。2000年からマドリードのソフィア王妃高等音楽院でナタリア・シャコフスカヤに師事した後、パリ国立音楽院においてフィリップ・ミレールの上級コースを修了。

09年マリア・ジョアン・ピリスとの共演によるショパンのチェロ・ソナタのアルバムをドイツ・グラモフォンよりリリース、グラミー賞にノミネートされた。10年トレヴァー・ピノック指揮シカゴ交響楽団との協演でアメリカ・デビューを果たし、その演奏はメディアに絶賛された。

近年、また今後予定されている演奏として、ユッカ=ペッカ・サラステ指揮フィンランド室内管弦楽団、トゥガン・ソヒエフ指揮トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、ポーランド・バルティック・フィルハーモニー、リスボン・メトロポリタン管弦楽団、南西ドイツ・フィルハーモニー交響楽団、ロシア・ナショナル・フィルハーモニー管弦楽団、サンクトペテルブルクの白夜祭、ボヴォア・デ・ヴァルジン音楽祭、リスボンのCCB、アムステルダム・コンセルトヘボウ、日本ツアーが挙げられる。

室内楽演奏においてもその演奏は高く評価され、オーギュスタン・デュメイ、アンドレイ・コロベイニコフ、ルイ・ロルティ、ヴァネッサ・ワグナー、アナスターシャ・テレンコワ等と定期的に演奏している。録音活動においては、12年オニックス・レーベルからオーギュスタン・デュメイ指揮関西フィルハーモニー管弦楽団と録音したサン＝サーンスのチェロ協奏曲第一番と「ミューズと詩人」が、最新アルバムが16年5月に同レーベルよりリリースされている。現在リスボン在住。

仁賀 環 Tamaki Niga : piano



桐朋女子高等学校音楽科卒業、桐朋学園大学音楽学部を経てパリ国立高等音楽院に入学。同音楽院ピアノ科を1等賞、伴奏科を満場一致の1等賞で卒業。

2000年、フランス・ジャン・フランセ国際コンクール第2位(最高位)、マリーズ・シェイラン国際コンクール第2位(最高位)。2014年までパリ国立高等音楽院、パリ地方音楽院の伴奏ピアニスト。またパリオペラ座管弦楽団、フランス放送管弦楽団の公式伴奏者。アンサンブルピアニストとしてフランス各地のオーケストラとのコンサートに多数出演。2015年、兵庫県立芸術文化センター大ホールにて、PAC管弦楽団コンサート出演。

これまでに横田新子、山田富士子、浜口奈々、ジェラルド・フレミー、パスカル・ドヴォワイヨンに師事。